第19回
かんら家庭の日推進大会

毎月第1日曜日は
家 庭 の 日

毎月第1土曜日は
少 年 の 日

令和8年3月1日(日)
PM1:30～（1:00開場）

甘楽ふれあいの丘 **甘楽町文化会館** 大ホール

主 催　甘楽町青少年育成推進員連絡協議会・甘楽町教育委員会

後 援　甘楽町区長会・甘楽町校長会・甘楽町小中学校 PTA 連合会
甘楽町民生委員児童委員協議会・甘楽町更生保護女性会
甘楽町子ども会育成会連絡協議会

かんら家庭の日推進大会

「家庭の日」の運動は、1955年（昭和３０年）に鹿児島県で生まれ、群馬県でも昭和４０年、子どもの日を記念して提唱され、毎月第１日曜日を「家庭の日」と定めました。また、昭和５８年度から毎月第１土曜日を「少年の日」と定め、「家庭の日」と連動した青少年の健全育成のための県民運動が推進されています。

家庭は、私たちの生活の基盤であり、家族の心のよりどころでもあります。

また、子どもたちにとっては、生きるルールを覚える最初の学校であり、知らず知らずのうちに、人格が形成されていく場でもあります。

家庭がそのような働きをよりよく発揮するためには、家族みんなの心がふれあう明るい家庭づくりを進めることが大切です。

甘楽町青少年育成推進員連絡協議会では、家庭の大切さ、家庭の役割のすばらしさ、青少年が自身の行動の責任と社会の一員としての自覚を深める日として、町内の小中学校から「家庭の日」「少年の日」の標語や作文などを募集し、表彰　作品展示　を行い「かんら家庭の日推進大会」を開催いたします。

［作品展示］

甘楽町文化会館　　３月１日（日）

ららかんら　　３月３日（火）～３月２０日（金）

「家庭の日」「少年の日」標語

「家庭の日」　　作文

「家庭の日」「少年の日」絵画・ポスター

～ 次　第 ～

第 一 部

１．開　　会

２．主催者あいさつ　　甘楽町青少年育成推進員連絡協議会長　住　谷　仁

３．表　　彰　　標語の部　作文の部

４．来 賓 祝 辞　　甘　楽　町　長　　森 平　仁 志　様

甘楽町議会議長　　金 田　倍 視　様

西部教育事務所長　　池 田　卓 巳　様

５．入賞作品発表　　標語の部　作文の部

６．講　　評　　甘 楽 町 教 育 長　　近 藤　秀 夫

７．閉　　会

第 二 部

アトラクション　　甘楽中学校吹奏楽部

第１９回「かんら家庭の日推進大会」標語・作文コンクール

【家庭の日　標語の部】

	作　　品	学校・学年・氏名
最優秀賞	ありがとう　言葉にすると　伝わるよ	新屋小学校　４年　片山　璃奈
	いってきます　一日はじめる　愛言葉	甘楽中学校　１年　牛木　千鶴
優 秀 賞	家族はね　言葉にできない　たからもの	小幡小学校　５年　大手　葵生
	家族って　心あったまる　たからもの	小幡小学校　５年　松野　希音
	家の中　にぎやかすぎて　動物園	小幡小学校　６年　桑原　琉華
	いただきます　命をつなぐ　合言葉	新屋小学校　５年　荒木　結衣
	家族だんらん　心とからだを　充電中	新屋小学校　６年　黒澤　優
	ありがとう　その一言だけで　家族は笑顔	甘楽中学校　１年　齋藤　小粋
	つなげよう　ワイファイよりも　家族の絆	甘楽中学校　１年　小井土　蒼真
	僕を見て　スマホじゃなくて　現実で	甘楽中学校　１年　岡田　光太郎
	おかえりと　言ってもらえる　あたたかさ	甘楽中学校　２年　齋藤　伊旺里
	みんなで　向き合う　日頃の感謝	甘楽中学校　２年　伊藤　颯汰

第１９回「かんら家庭の日推進大会」標語・作文コンクール

【少年の日　標語の部】

	作　　品	学校・学年・氏名
最優秀賞	こんにちは　心和らぐ　その笑顔	小幡小学校　６年　江川　侑里
	行動に　ひとつひとつの　責任を	甘楽中学校　２年　齊藤　瑠海
優 秀 賞	ありがとう　感謝の気持ちで　つながる輪	小幡小学校　４年　倉茂　蒼士
	わかるよね？　やっていいこと　だめなこと	福島小学校　５年　石井　奈琉美
	使わない　相手が傷つく　その言葉	新屋小学校　５年　石村　詩乃
	思いやり　社会でとても　大事だよ	新屋小学校　５年　野口　叶彩
	スマホって　友達よりも　大事なの？	新屋小学校　６年　黒澤　千晶
	ありがとう　恥しがらずに　言ってみよう	甘楽中学校　１年　柳澤　実杜
	あいさつで　周りの人に　ほほえみを	甘楽中学校　１年　新井　楓
	あいさつは　絆を深める　第一歩	甘楽中学校　２年　齊藤　湊
	気をつけて！　外面だけじゃ　分からない	甘楽中学校　２年　勅使川原　惺
	怖がらず　本当の気持ち　伝えよう	甘楽中学校　２年　堀込　岳琉

【家庭の日　作文の部】

	作　　品	学校・学年・氏名
最優秀賞	ぼくの家族	福島小学校　４年　内田　陽翔
	家族への感謝	甘楽中学校　１年　堀込　彩光
優 秀 賞	私のにぎやかな家族	小幡小学校　６年　桑原　琉華
	私の家族	小幡小学校　６年　柳澤　莉乃愛
	励ましの言葉	新屋小学校　６年　小林　伶
	家族	甘楽中学校　１年　松井　夏々帆
	家族の温かさ	甘楽中学校　１年　林　愛莉
	じまんの家族	甘楽中学校　１年　佐藤　蒼愛

かんら家庭の日　作文コンクール入賞作品

《最優秀賞》

ぼくの家族

甘楽町立福島小学校　４年　内田　陽翔

ぼくの家族は、お母さん、弟、おじいちゃん、おばあちゃん、おじいちゃんの妹の６人です。お父さんは、ぼくが１さいの時天国へいってしまいました。なのでお父さんのことは、ほとんどおぼえていませんがお母さんの話では、とてもやさしいお父さんだったみたいです。弟が顔はお父さんににていて性格はお母さん。ぼくは顔がお母さんで性格はお父さんににているとよくいわれます。ぼくたちは双子だけど顔も性格もにていません。

お母さんは、毎日働いて土日は朝早くおきてお弁当を作り、野球のおうえんにきてくれます。野球の練習が早く終わって時間があるとぼくが行きたいところにも連れて行ってくれて全力で遊んでくれるパワフルなお母さんです。

弟は運動が何でもできて野球もとても上手です。１年生の時から一緒に野球を始めました。守備もうまいし、バッティングもすごいし、ピッチャーもできる自まんの弟です。ぼくもスタメンで試合に出られるようになったので弟に負けないようにがんばりたいです。

おじいちゃんは、子どものころから野球をしていたので夕方の野球の練習に一緒に来てくれます。お父さんの代わりをしてくれるおじいちゃんです。料理が上手で、とくせいハンバーグがとくにおいしいです。ぼくも料理が作れるようになりたいので今度ハンバーグの作り方を教えてもらおうと思います。

おばあちゃんは、料理がとくいでおばあちゃんの作ってくれるちゃわんむしがぼくの大好物です。あげたてアツアツのとんかつもおいしいです。おばあちゃんはお花が大好きで色々なお花を育てています。ぼくにもお花にも、みんなにやさしいおばあちゃんです。

おじいちゃんの妹は、おいしいものが大好きで、おいしいものを色々しっていて教えてくれます。この前は一緒におかし作りをしました。ぼくはこんな家族が大好きなので、これからも大切にしていきます。

《最優秀賞》

家族への感謝

甘楽町立甘楽中学校　１年　堀込　彩光

みなさんは家族に感謝をしていますか。その感謝を伝えていますか。私は家族への感謝の気持ちが足りていないなと思います。毎日ご飯を作ってくれたり、色々な物を買ってくれたりします。たまには「勉強しなさい」や「片付けしなさい」など、おこられることもあるけれど、今までのことを思い出してみたら、家族に感謝することは沢山あるなと改めて思いました。なのに私は反抗してしまったり、わがままを言ってしまったりして、自分は何をしているのだろうと反省します。

私はそう思ってから、家族から感謝されることをしたいと思いました。それから、皿洗い、そうじ、料理など沢山お手伝いをしました。そしたら家族からとても感謝され、すごく嬉しい気持ちになりました。私は感謝されるとこんなに嬉しいんだと感謝された人の気持ちが分かったような気がしました。

それから私は家族にも感謝しないとと気づき、勇気を出して「いつもありがとう」と言いました。その時は「急にどうしたの？」と少しおどろいていたけれど、今では少しの出来事でも「ありがとう」と言うことがあたり前になり、家族に沢山感謝を伝えられるようになりました。感謝すると、自分も相手も良い気持ちになるなと心から思います。これからもお手伝いを沢山して、感謝を沢山伝えていきたいです。そして、家族だけでなく、友達や親戚など沢山の人に「ありがとう」と言える人になりたいです。

《優秀賞》

私のにぎやかな家族

甘楽町立小幡小学校　６年　桑原　琉華

私の家族は、とにかくみんなおしゃべりが大好きです。

いつも、ねる直前までにぎやかです。だからお母さんとお父さんは、

「お願いだから早くねて！」

と、笑いながら言ってきます。

私は、学校から帰ると、まず学校であった出来事を話します。お母さんは、いそがしく夕飯の用意をしながら、話を聞いてくれます。

お兄ちゃん達が帰ってくると、お兄ちゃんたちもその日の出来事を話します。お母さんは、あっちもこっちも話を聞いてとてもいそがしそうです。まるで、聖徳太子の様にみんなの話を聞いています。でも、私はそのにぎやかな家族が大好きです。

私の家族は、よく歌も歌っています。誰か１人が歌っていると、みんなが歌いだします。車の中や、勉強中、家事の最中など、あちこちから聞こえてきます。でも、家の窓が開いている時は、お母さんが、

「外に聞こえちゃうからやめて！」

と、ふざけて言います。それも、楽しいです。

私が一番楽しみにしているのは、家族の誕生日やクリスマスパーティーの時に、家族みんなでわいわい話をしながら、たくさんの料理を食べる事です。私もお手伝いをしながら、ケーキまですべて手作りで作ります。私は、いつもみんなにこっそりプレゼントを用意します。プレゼントをあげると、みんなが喜んでくれるので、とてもうれしいです。

みんなで、笑って話している時に、家族のあたたかさを感じます。兄弟けんかをする時もあるけれど、こういう楽しい家族が大好きです。これからも、家族みんなで楽しく話す時間を大切にしていきたいです。

《優秀賞》

私の家族

甘楽町立小幡小学校　６年　柳澤　莉乃愛

私の家族は６人家族です。父、母、弟が２人、妹の６人家族です。おこるとこわいけど、いつもやさしい父親、常に身近で私達を見守り支えてくれる母親、お調子者だけど、何かあるとすぐにかけつけてくれる弟、泣き虫だけど負けずぎらいで責任感の強い弟、少しわがままで甘えんぼうだけど一番の遊び相手の妹。みんな大好きな家族です。父がよく弟２人に言う言葉があります。「男はすぐに泣くな。強くなれ。男は家族を守らなくてはいけない。」と。そんな父も家族の中で一番たよれる存在です。もう一つよく言う言葉があります。それは「うそをつくな。」です。どんな状況であっても、うそだけはついてはいけない。うそが習慣になると人は悪い事をしようとするものだと聞かされていました。私が小学校４年生の時、うそがきっかけで、友達とトラブルになった事がありました。父は私を信じずっと味方でいてくれていました。後々、一番悪いのは私がうそをついた事が原因だと分かった時も、父はおこる事はなく、ただ少しさみしそうな表情で、私に言いました。「りのあが、うそをついた事は悪い事だけど、どんな事があっても、パパは、りのあの一番の味方だからね。」とずっと不安だった私がその言葉にどれだけ救われたかは今でも覚えています。家族は、強い絆でつながっているのだと改めて感じました。さみしいとき、辛い時はもちろん、うれしい時、楽しい時も、家族みんなで助け合い、共に分かち合い支え合っていけたらとても幸せだと思いました。私の大好きな家族をこれからも大切にしていきたいと思います。

母もまた、何も言いませんでしたが、私をとても心配し、かげで見守ってくれていました。

《優秀賞》

励ましの言葉

甘楽町立新屋小学校　６年　小林　伶

私は５歳から空手を習っています。その中で心に残っているエピソードを書きたいと思います。

まず、一つ目は５年生の時の県外での練習試合での出来事です。参加者は大会上位に入賞する子ばかりで私は萎縮してしまい、やってもどうせ負けると決めつけて自分から挑戦することができず、ずっと泣いていました。そんな私を見てお母さんが「負けてもいいからやってごらん」「やる前から諦めてどうするの」と励ましの言葉をかけられたけど、その日はとうとうなにもできずに帰りました。帰宅してから、私は後悔し、一週間後に迫っている大会で絶対に巻き返そうと決意し、お母さんの言葉を思い出しながら一生懸命練習に取り組みました。その結果大会で３位を取りました。お母さんの励ましの言葉がなかったら、３位は絶対に取れなかったと思います。

もう一つのエピソードは私が小学校中学年の時の練習試合の話です。戦うことでの恐怖心や気持ちが乗らないことで「嫌だ」という気持ちが勝って試合に集中できず、負けてしまい泣いてしまいました。泣いていた私にお父さんが「やってみよう。強くなれるチャンスだよ。絶対に大丈夫。」と言ってくれました。私は勇気を振り絞って試合に参加しました。試合中に家族が「頑張れ」と応援しているのが聞こえて、私は相手の子に蹴りを入れました。試合には負けたけれど、あのまま帰っていたらずっと後悔してたと思います。家族の応援がなければ蹴りを入れられなかったと思います。

いつも私が泣いている時や、落ち込んでいる時に励ましの言葉をくれるお父さんやお母さんに感謝しています。どんな時でも私の味方でいてくれてありがとう。

《優秀賞》

家族

甘楽町立甘楽中学校　１年　松井　夏々帆

小学校の頃は、ご飯をつくってくれるのが当たり前だと思っていた。家に帰ればお母さんが料理を作っていて、姉がいて、皆が「おかえり」と言ってくれて。当たり前のように、「ただいま」と返した。だが、姉が高校生、私が中学生となり、家族と話す時間が減ってしまった。朝起きれば、母がいそがしそうに姉のお弁当を作る。本当は眠いはずなのに。夏休みに入り、姉のお弁当を作る事はなくなったが、私の駅伝練習が始まった。母は私が起きる時間に合わせて起きる。母は、私の体を考えてご飯を作ってくれる。当たり前だと思っていた事が当たり前ではない事に気づいた。父は、責任感が強く、ルールに厳しい。父を嫌いと思った事もあったし、正直うざかった。だが、父が泣きながら私におこるのを見て、厳しさの裏には優しさがあったんだと気づいた。２人の姉はいつも優しくて、明るくて、常に周りが見えて、気遣いができる。私が部活でつかれて帰ると、いつも「おつかれ様」と言ってくれる。こんな家族が私は大好きだ。家族全員がそろってご飯を食べたり、お話しできる事は少ないが、その少ない時間を大切にしようと思った。これからも幸せを共有し合えるような家族でいたい。

《優秀賞》

家族の温かさ

甘楽町立甘楽中学校　１年　林　愛莉

私はいつも学校であった楽しい事、うれしい事を家族に話します。時には、悲しかった事、やだった事も話します。話す時は、直感でいっているのでわかりずらい所もありますが、私の家族は快く最後まで話しを聞いてくれます。たくさん話すと、うれしかった事などは余計心が温かく、うれしい気持ちになるし、悲しかった事、やだった事を話すと、少しもやもやが消えて次頑張ろうという気もちがわいてきます。おもしろい話、くだらない話もたくさんありますが、それを聞いてくれる家族はすごくうれしいです。これが家族の温かさなんだなと実感します。

家族の温かさに気づいた事はもう一つあります。今、私のお姉ちゃんは空手のアジア大会で一人で海外に行っています。なんでも話せるお姉ちゃんが海外にってしまっているのは少し悲しいです。お姉ちゃんが海外に行っている時の週末、私と、母と父は買い物に出かけました。でも、一人家族がいないと、なんだかいつもとちがうような気がしました。なので家族はいるだけで温かく幸せだと思いました。しかし、中学生になるにつれて家族との時間が減っているなと感じるし、姉は高校生になるのでもっと時間が短くなると思います。なので家族との貴重な時間を大切にし、一つでも多く思い出をつくりたいです。

《優秀賞》

じまんの家族

甘楽町立甘楽中学校　１年　佐藤　蒼愛

私の家族は誰にでも沢山じまんができる家族です。

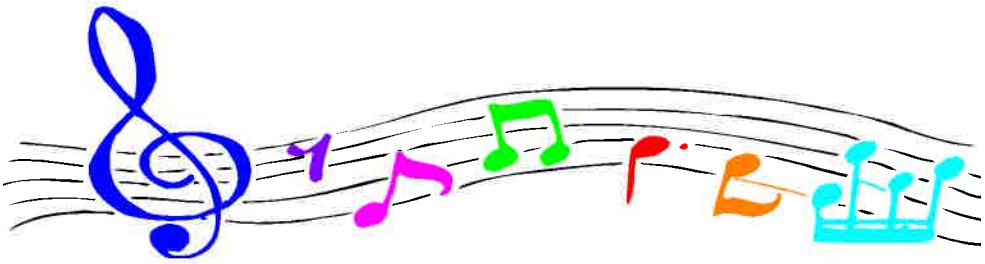
今年の春休み中の４月のお母さんと一緒に行った東京の話、私とお母さん二人で自分たちの推しに会うため東京ドームがある東京に行った時、予想外に外が寒かったときに、お母さんは私に上着を買ってくれたのです。その上着は素材がうすく作られていました。でもその上着にはお母さんが自分のために買ってくれた物なので、あたたかく感じました。

次は、夏休み中、おばあちゃんもふくめて新潟の寺泊という長岡市にある所に行った時に、海は昨日、雨が降っていたことで、波が少しあれていたので、入ることはやめましたが、その海の近くにある、魚などが売られている所に行きました。

その後には、近くにある水族館に行きました。

展望台みたいな所から見る風景はとても最高で、仕事で忙しいはずなのに、休みをとってくれて、私はこの家族のむすめとして、生まれられてよかったって心の底から思えて、その日は日帰りだったけど、その日のできごと、お母さんと一緒にマンゴー味のかき氷を分けながら食べたり、お金がなくて、私のほしい物が買えない時もお父さんが私のほしい物を買ってくれて、私の行きたい所にも行ってくれて、本当にその日は楽しくて、夏休みが始まって数日後した日に、りゅう神祭りというのに行った時も、いとこも一緒に行ったその思い出、私がほしいと言った物を買ってくれたお母さんに、私の名前を大きな声で呼びながら、走ってくるすがたに、私はいとこよりも上なのでそのすがたはかわいくて、私を産んでくれたお母さん、いつも、仕事をがんばっているお父さん、私を大切に思ってくれているおばあちゃん、けんかばっかりだけど、私の本当に大切にしている弟、この家族に生まれた私は今、とても幸せ者でじまんのできる、世界一の家族です。

アトラクション

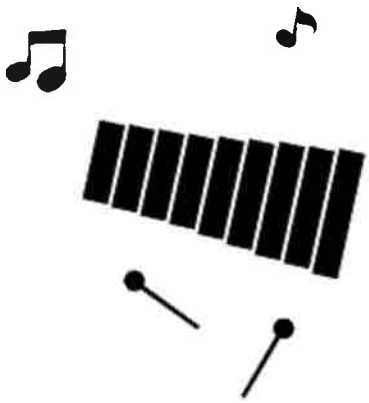


♫ 甘楽中学校　吹奏楽部 ♫

𝄞吹奏楽のための「エール・マーチ」

𝄞フレンド・ライク・ミー

ほか



甘楽町キャラクター「かんらちゃん」